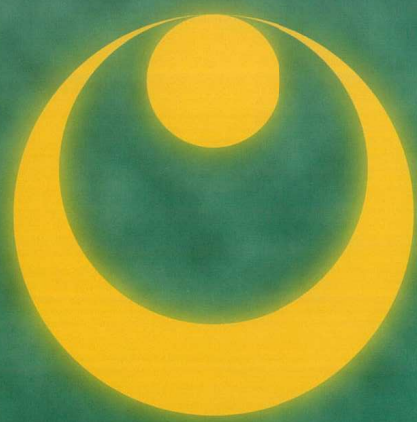


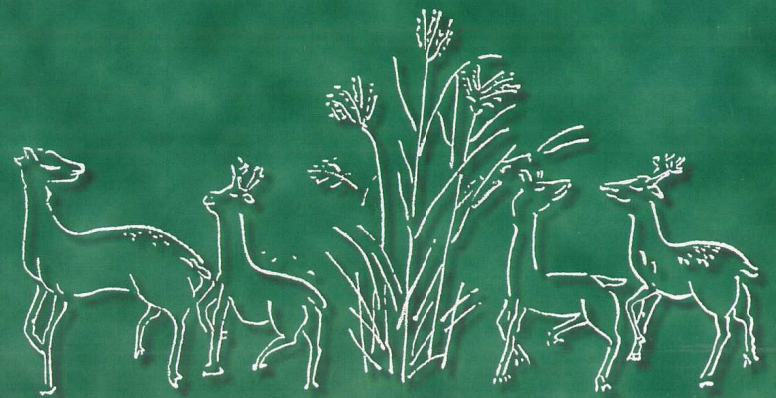
荒上・向根古谷地区は未指定地区

国指定史跡  
本佐倉城跡



平のなにかしと申たてまつりて  
弓馬の家にすくれ威を八州にふるい  
諸道に達して政を両総におさめ中にも  
大和歌に心をよせて作倉と申地にさきくさ  
のたねをまき給

永正十一年『雲玉和歌集』より



国史跡本佐倉城跡案内図

所在 千葉県印旛郡酒々井町本佐倉・佐倉市大佐倉  
交通 京成大佐倉駅 徒歩10分  
京成酒々井駅 徒歩20分  
JR酒々井駅 徒歩25分

●お問い合わせ先  
酒々井町教育委員会 社会教育課  
〒285-8510  
千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11  
TEL.043-496-1171  
佐倉市教育委員会 文化課  
〒285-8501  
千葉県佐倉市海隣寺町97  
TEL.043-484-1111

発行 酒々井町・佐倉市  
<http://www.town.shisui.chiba.jp/>  
<http://www.city.sakura.lg.jp/>



本佐倉城跡鳥瞰図

城郭用語メモ

**虎口**……城の出入口を虎口といいます。「小口」とも書き、「直虎口」「食い違い虎口」「坂虎口」「掘虎口」「枡形虎口」等種々あり、そこに木戸、門などが造られます。

**馬出し**…攻撃のため虎口に構えられた設備で、虎口前に造られた区画のことです。向根古谷に「角馬出し」という形をした馬出しがあります。

**横矢**……敵の横側面から矢や鉄砲玉を撃つことが出来るように土塁を曲げて造ります。「折」「隅槽」「出枡形」等があり荒上郭に典型的な形が造られています。

**槽**……「矢倉」とも書きます。字のとおり武器の貯蔵庫でした。城の発達につれて大型となり、物見や防衛拠点となる「槽」へと変遷していきます。城山、向根古谷に見られます。

本佐倉城一口メモ

**城の規模**  
東西約700m、南北約800m  
面積約35万平方メートル。

**城下町**  
1.5km四方に「城下町」が点在しています。城下町は「佐倉」、「酒々井」、「鹿島」、「浜宿」の四ヶ所がありました。また城下には寺院が20ヶ寺、神社が17社が確認できます。

\*城跡は一部を除き、民有地です。見学に際して土地所有者また居住している方々に迷惑のかからぬよう、作物等を荒らさぬよう、ご配慮をお願いします。

国史跡 本佐倉城跡(戦国佐倉城)

本佐倉城は下総守護千葉氏が文明年間(1469~1486)に築城し、天正十八年(1590)に豊臣秀吉に滅ぼされるまで関東有数の大名千葉氏の居城でした。

城と町のはじまり

千葉氏は享徳三年(1454)に始まる関東の戦乱によって千葉の城を捨て、新たに城を印旛沼に面した交通の拠点である「佐倉」に移し、城下に家臣や市場や町屋を集めました。

下総の首府

16世紀前半には城下町も整い、都市的な発展を遂げており、連歌会や猿楽を毎月のように催すなど「佐倉」は下総の政治・経済・軍事・文化の中心として栄えていました。

戦乱の中で

弘治三年(1557)に城主の親胤が家臣に暗殺される事件が起き、叔父胤富が後を継ぎます。

天正十三年(1585)には胤富の子である城主の邦胤が、家臣に暗殺される事件がおきました。

この後、縁戚である小田原北条氏の軍事介入により千葉氏は後北条氏の支配下に入ります。

天正十八年(1590)年、豊臣秀吉による小田原攻めにより、千葉氏は北条氏とともに滅亡、本佐倉城は千葉氏の居城としての役割を終えることになり、徳川家康の支配となります。

現在でも大規模な空堀・土塁、槽台に守られた郭群などが明瞭に残っており、戦国時代の息吹が感じられます。

本佐倉城は重要な文化財として国史跡に(平成10年9月11日)指定され、その保存整備が進められています。

表紙の絵と文について

上段は月と星をデザインした千葉氏本宗家の家紋。  
中段は永正11(1514)年に衲叟馴窓(歌人)が編集した「雲玉和歌集」の前文の部分、「平のなにかし」とは城主千葉勝胤のことで文武に秀で「作倉(佐倉)にさきくさ(幸の草)のたね(種)をまき給」と、勝胤を評価している文です。  
下段は雌雄の鹿と秋草をデザインした千葉氏の陣幕文様。陣幕とは野外で使用する風防ぎのための布です。